

# 多様なロールモデルを示すことで 女子学生のキャリア意識を育くむ

理系の世界は一般的にまだ男性社会であることが多く、女性の進出強化は社会的な課題ともなっている。このテーマに日本大学はどのように取り組んできたのか？



日本大学 総長  
大塚 吉兵衛氏 (左)

1969年日本大学歯学部歯学科卒業。73年大学院歯学研究所歯科基礎系修了。79年に日本大学歯学部助教授、93年に教授就任。歯学部長、副総長を経て2011年に現職。

日本大学医学部皮膚科教授  
駿河台日本大学病院皮膚科部長  
落合 豊子氏 (右)

1975年日本大学医学部卒業。79年日本大学大学院医学研究科修了。96年に日本大学医学部助教授、2007年に教授就任。キャリアウェイプロジェクトリーダーとして改革をリードする。

日本大学は、平成20年度から22年度にかけて、文部科学省の採択事業として、女性研究者支援モデル育成「キャリアアウェイユニバーサル化日大モデル」事業を推進。24年度には男女共同参画推進委員会を立ち上げるとともに、学内資金として創設した理事長特別研究による「キャリアアウェイ（理系女子学生のキャリア教育と活躍促進のための環境整備に関する研究）（略称キャリアアウェイプロジェクト）」をスタート。取り組みの継続、拡大を図ってきた。

女子学生も増えていきます。それに対して、設備面の不足や女性教員の割合が低いといった課題が現実問題としてありました。こうした環境を改善しつつ、女子学生の割合をさらに増やし、彼女らが社会で活躍するための道筋をつけるための動きを全学で進めていきます（大塚吉兵衛総長）

## 女性教員比率も上昇

具体的には、付属の中学・高校の女子生徒に理系に関心を持たせるための出張授業や実験教室、理系学部の女子学生に対するキャリア教育、理系学部の女性教員育成と割合の拡大といった、キャリアの入口から出口までをカバーする多面的な取り組みが進められてきた。理系9学部の専任教員女性比率は18年度の9.7%から、23年度には15.2%（全学16.1%）に増えるなど、成果も着実に現れている。そして一連の取り組みの中でも核となるのがキャリア教育。キャリアアウェイプロジェクトリーダーを務める落合豊子教授にその内容について聞いた。

「医学部の場合は、研究者として大学に残ることを考えると、一人前になるまでに非常に期間を要します。女性はその間に出産・育児を迎えますから、大学卒業後のキャリア形成が大きなテーマになります。一方、理系の学部などでは就職とその後の継続が大きな課題です。そのため、実際に社会で活躍している女性のロールモデルを示し、各学部を卒業した後どのような選択肢があるのか、そこにどのような困難があり、それをどう克服したかを実例から学んでもらうことに力を入れています」

医学部では幅広い世代の女性医師を講師として招くロールモデルセミナーを開催。その他の各理系学部でも同様の取り組みを行っている。また、理系学部共通のロールモデル集（冊子）を配布。女子学生からは、「将来像が見えるようになり、そのために今どんな準備をするべきかが理解できた」と好評を得ているという。

## 「キャリアアウェイ」を示す